

|                       |   |       |     |      |   |        |        |
|-----------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分                  | 博物館学芸員課程科目  |       |     |      |   |        |        |
| 科目名                   | 生涯学習概論  |       |     |      |   |        |        |
| 担当教員                  | 戸来 知子   |       |     |      |   | 科目ナンバ- | T21990 |
| 学期                    | 前期/1st semester   | 曜日・時限 | 火曜5 | 配当学年 | 1 | 単位数    | 2.0    |
| 授業のテーマ                | 人が学校を卒業してからも、生涯に亘って学び続けることの意義や必要性を理解すること。<br>現代社会にどのような学びの場があるのかを知り、また学習を保障する法律や法規を知ること。  |       |     |      |   |        |        |
| 授業の概要                 | キーワード：生涯学習社会の理念と実情の理解<br>生涯学習という概念は、1960年代の中頃から新しい教育理念として出てきた。今日では、生涯学習社会を構築するために、学校教育にとどまらず、社会教育の役割も重要になっている。生涯学習論では、教育の原理、および生涯学習の意義を把握し、人間のライフサイクルと共に変化する学びの必要性を学習する。また、社会教育施設や、教育に関する地方自治体の行財政や法律についても学ぶ。   |       |     |      |   |        |        |
| 到達目標                  | 生涯学習の目標を具体的に述べることができる。<br>生涯学習社会の歴史的経緯を説明できる。<br>現代の生涯学習や社会教育の場を列挙することができる。<br>アンドラゴジーとリンデマンの生涯学習理論を理解する。   |       |     |      |   |        |        |
| 授業計画                  | 第1回 オリエンテーション 生涯学習の歴史的側面・理念・目標について<br>第2回 学校教育と生涯学習の関連性及び生涯学習の現状を知る<br>第3回 生涯学習社会における家庭教育・学校教育・社会教育の役割と連携<br>第4回 日本と外国の生涯学習に対する取り組みの比較考察<br>第5回 人間の成長と発達の理論（様々なライフサイクル論・乳児期から青年期）<br>第6回 人間の成長と発達の理論（エリクソンのライフサイクルの青年期・成人期・老年期）<br>第7回 子供の学習と成人の学習の違いについて<br>第8回 成人期の学習の特徴と学ぶことの意義について（アンドラゴジー理論の紹介）<br>第9回 成人期の学習の特徴と学ぶことの意義について（リンデマンの生涯学習論の紹介）<br>第10回 老年期に学ぶことの意義と実情について<br>第11回 死への準備教育（デス・エデュケーションの紹介）<br>第12回 社会教育施設および生涯学習施設の紹介及びその管理と運営について<br>第13回 学習者への支援と評価の在り方・学習成果の活用について<br>第14回 生涯学習および社会教育に関する振興施策と推進の事例について<br>第15回 生涯学習および社会教育に関する教育法規について |       |     |      |   |        |        |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 授業前学習：教科書の次の授業で取り扱う箇所を事前に読んでおくこと。理解できないところや疑問点をピックアップしておくこと。（学習時間 90分）<br>授業後学習：教科書を再読し、ノートを整理すること。配布した資料を読んでおくこと。（学習時間 90分）  |       |     |      |   |        |        |
| 授業方法                  | 講義。グループディスカッションを数回予定している。   |       |     |      |   |        |        |
| 評価基準と評価方法             | 試験70%、小レポート10% 各回提出のリアクションペーパー（授業のコメント、感想、提案など）による平常点、20%   |       |     |      |   |        |        |
| 履修上の注意                | 司書資格・学芸員資格に必修です。<br>毎回出席を取ります。  |       |     |      |   |        |        |
| 教科書                   | 『生涯発達と生涯学習』 堀薫夫著 ミネルヴァ書房 ISBN978-4-623-05667-5  |       |     |      |   |        |        |
| 参考書                   | 『生涯学習論 - 現代社会と生涯学習』、岩永雅也著、放送大学大学院教材   |       |     |      |   |        |        |

|                       |  |       |     |      |   |        |        |
|-----------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分                  | 博物館学芸員課程科目   |       |     |      |   |        |        |
| 科目名                   | 博物館概論  |       |     |      |   |        |        |
| 担当教員                  | 中山 創太  |       |     |      |   | 科目ナンバ- | T22710 |
| 学期                    | 前期/1st semester  | 曜日・時限 | 月曜4 | 配当学年 | 2 | 単位数    | 2.0    |
| 授業のテーマ                | 博物館に関する基礎的知識を理解し、専門性の基礎となる能力を養う。   |       |     |      |   |        |        |
| 授業の概要                 | 博物館学の多様な理論ならびに実習を学ぶにあたり、基礎的な知識として身に付けておくべき、博物館の定義、種類、機能、歴史などを学習する。さらに、博物館の置かれた現状を把握することにも努め、これからの博物館のあり方を考える知識と能力を養う。  |       |     |      |   |        |        |
| 到達目標                  | 博物館とは何をする、そして何をすべき機関であるかを知ることができる。またそこに属する学芸員はどのような仕事をしているのか、その資質として何が必要かを知ることができる。また現在の博物館と学芸員を取り巻く問題点も把握できる。   |       |     |      |   |        |        |
| 授業計画                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>(1回) 博物館学の目的、方法(博物館論理学と技術学)、構成要素、周辺科学</li> <li>(2回) 欧米と日本における博物館学史</li> <li>(3回) 博物館の語源・定義(ICOM・ユネスコ・博物館法の規定)、他機関との相違</li> <li>(4回) 博物館の種別分類、設置者別分類、法的区分</li> <li>(5回) 博物館の目的とは</li> <li>(6回) 博物館の機能について</li> <li>(7回) 博物館の社会的機能(地域社会型、観光型、研究型)</li> <li>(8回) 欧米における博物館発達史</li> <li>(9回) 日本における博物館発達史1(昭和20年まで)</li> <li>(10回) 日本における博物館発達史2(昭和20年以降)</li> <li>(11回) 博物館の現状と課題(種別、地域分布、入館者数など)</li> <li>(12回) 博物館の未来像、博物館と他者との「連携と対話」</li> <li>(13回) 拡大する文化財概念と世界文化遺産</li> <li>(14回) 学芸員の役割(定義、役割、実態、諸外国との相違)</li> <li>(15回) 博物館関連法令について</li> </ul> |       |     |      |   |        |        |
| 授業外における学習(準備学習の内容・時間) | 博物館の見学はもちろん、新聞や雑誌、インターネットなどで、できるだけ博物館に関する情報に触れておくこと。<br>講義で学んだことを、現実の博物館にてらしつつ、自分にとって博物館とはという問題を考え続けること。   |       |     |      |   |        |        |
| 授業方法                  | 講義形式にておこなう。  |       |     |      |   |        |        |
| 評価基準と評価方法             | 発表20%、レポート・小テスト30%、筆記試験(持ち込み無)50%にて、総合的に評価する。  |       |     |      |   |        |        |
| 履修上の注意                | 積極的に授業に参加する学生の受講を期待する。   |       |     |      |   |        |        |
| 教科書                   | 授業中にプリントを適宜配布。   |       |     |      |   |        |        |
| 参考書                   | 授業中に紹介します。<br>・倉田公裕・矢島國雄著『新編 博物館学』(東京堂出版)<br>・高橋隆博他編著『博物館学ハンドブック』(関西大学出版会)   |       |     |      |   |        |        |

|                       |   |       |     |      |   |        |        |
|-----------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分                  | 博物館学芸員課程科目  |       |     |      |   |        |        |
| 科目名                   | 博物館教育論  |       |     |      |   |        |        |
| 担当教員                  | 守屋 雅史   |       |     |      |   | 科目ナンバ- | T22760 |
| 学期                    | 後期/2nd semester   | 曜日・時限 | 水曜4 | 配当学年 | 2 | 単位数    | 2.0    |
| 授業のテーマ                | 博物館における教育活動について、基本となる理論と実践事例の知識を学習し、博物館の教育機能に関する基礎的な能力を習得する。  |       |     |      |   |        |        |
| 授業の概要                 | 博物館は社会教育の場であり、生涯学習の場でもある。この二面的な教育のあり方の認識と対応は、現在の博物館にとって重要な課題である。博物館は学びの場としてどうあるべきか、そして利用者に対してどのように教育的活動を支援し、実践してゆけるのかを紹介し、将来的なよりよい教育のあり方を多面的に考察する。また、観光の場としての博物館の特性にも注意を払い、アミューズメント性と教育・学習の場との両立のあり方にもふれる。  |       |     |      |   |        |        |
| 到達目標                  | (1)博物館教育の理論と具体例を学ぶことによって、博物館が実践しているさまざまな教育的な活動を理解することができる。<br>(2)博物館で実施する教育活動やイベントなどに関して、新たな観点から企画・立案する応用力を身につけることができる。   |       |     |      |   |        |        |
| 授業計画                  | 第1回 インタロダクション(博物館における学びとは?)<br>第2回 博物館教育の歴史と現状<br>第3回 社会教育としての博物館(人材の育成)<br>第4回 生涯学習の場としての博物館(自主的な学びへの対応)<br>第5回 観光の場としての博物館(リクレーションと教育的配慮)<br>第6回 博物館の利用実態(多様な利用者とニーズ)と利用者の博物館体験<br>第7回 博物館における学びの特性(モノを通しての学び)<br>第8回 博物館教育活動の手法1(講座、講演会、体験学習、ギャラリートーク)<br>第9回 博物館教育活動の手法2(体験学習と博物館資料)<br>第10回 博物館教育活動の手法3(博学連携、子ども向け講座、ワークシート)<br>第11回 博物館教育活動の手法4(生涯学習とボランティア活動)<br>第12回 博物館教育活動の手法5(ハンズ・オンとインターン研修)<br>第13回 博物館教育活動の手法6(ワークショップとイベント)<br>第14回 博物館教育活動の手法7(情報提供、出版事業、資料の特別利用)<br>第15回 博物館教育に関する今後の展望と期末試験 |       |     |      |   |        |        |
| 授業外における学習(準備学習の内容・時間) | 各回の授業テーマの内容を図書館にある参考書などによって予習しておく。(学習時間:30~60分)<br>なお、プライベートな時間に、近隣の博物館施設に足を運んで興味のある平常展や特別展の見学に努めたり、博物館や文化財、科学成果などに関する新聞記事やテレビのニュース・特別番組などに接した時には、興味のある内容や疑問点ピックアップし、授業の終わりなどに質問をして理解することも博物館を知る上では重要である。   |       |     |      |   |        |        |
| 授業方法                  | 基本的には、各回設定のテーマに基づいた講義形式。<br>ただし、時間的・人数的に可能であれば、実習的な体験学習をしたり、グループ討議を行う。  |       |     |      |   |        |        |
| 評価基準と評価方法             | 期末試験70%:授業で扱った講義内容に関する理解度などにより評価する。<br>レポート15%:出題した課題に対する、内容の整理、コメントや疑問点などの記述により評価する。<br>平常点15%:授業中の質疑応答やリアクションペーパーなどによるコメントなどで評価する。<br>課題に対するフィードバックの方法<br>平常時の質問やコメントは授業中に解説し、レポートは講評を加えて返却する。期末試験の講評は、松蔭manabaで告知する。   |       |     |      |   |        |        |
| 履修上の注意                | 出席が授業回数の3分の2以上になるように気を付けること。<br>レポートとして、各々の受講生が近隣の博物館等を見学したうえでまとめる内容の課題を出す場合があり、その場合は入館料、交通費等は受講生の実費負担となる。  |       |     |      |   |        |        |
| 教科書                   | なし。授業中にプリントを適宜配布する。   |       |     |      |   |        |        |
| 参考書                   | 『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本部会 編 芙蓉書房出版(2012.3) ISBN:978-4-8295-0551-9<br>『大学生のための博物館学芸員入門』真野和生ほか 編著 技報堂出版(2014.4) ISBN:978-4-7655-4129-9<br>『ハンズ・オン考-博物館教育認識論-』小笠原喜康 著 東京堂出版(2015.9) ISBN:978-4-490-20919-8<br>『博物館教育論』大高幸・端山聡子 編著 (財)放送大学教育振興会(2016.3) ISBN:978-4-595-31614-2   |       |     |      |   |        |        |

|                       |  |       |     |      |   |        |        |
|-----------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分                  | 博物館学芸員課程科目   |       |     |      |   |        |        |
| 科目名                   | 博物館経営論   |       |     |      |   |        |        |
| 担当教員                  | 守屋 雅史  |       |     |      |   | 科目ナンバ- | T23720 |
| 学期                    | 前期/1st semester  | 曜日・時限 | 水曜4 | 配当学年 | 3 | 単位数    | 2.0    |
| 授業のテーマ                | 博物館の望ましい管理・運営のあり方について、博物館の組織、施設、行財政の諸問題、市民・地域社会等との連携などの現状と課題に即して考察する。  |       |     |      |   |        |        |
| 授業の概要                 | 博物館経営（ミュージアムマネジメント）について、近年の博物館を取り巻く状況をふまえながら、博物館の組織体制や日常的な運営のあり方について紹介し、経営基盤・経営システム（国立・公立・私立）の現状と課題について概観する。また、使命・計画の明文化や自己評価・外部評価、市民サービスのあり方なども取り上げ、博物館が課題解決のためにさまざまな相手との連携活動等に取り組み、社会環境の変化に対応していることを紹介する。  |       |     |      |   |        |        |
| 到達目標                  | (1)歴史・美術・科学などの幅広い分野の実例を通じて、博物館の組織や活動のあり方などが理解でき、博物館経営に関する基礎的な能力を身につけることができる。<br>(2)市民目線から博物館のあるべき未来像（市民にとってどのような博物館が望ましいのか）に関する自身の考えをまとめることができるようになる。  |       |     |      |   |        |        |
| 授業計画                  | 第1回 インTRODクシヨンーミュージアムマネジメントの必要性ー<br>第2回 日本の博物館施設と経営形態<br>第3回 博物館の法体系と運営の実態（組織体制、人材、行財政）<br>第4回 学芸員の仕事と問題点<br>第5回 博物館のマーケティング、使命と計画、自己評価と外部評価<br>第6回 博物館の倫理と行動規範<br>第7回 博物館の立地、施設、設備（ユニバーサル・デザインと多言語化）<br>第8回 歴史系博物館の運営<br>第9回 美術系博物館の運営<br>第10回 科学系博物館の運営<br>第11回 専門館、大学博物館の運営<br>第12回 博物館の危機管理<br>第13回 利用者サービスと市民参画（友の会、ボランティア）<br>第14回 他館や民間などとの連携、地域社会における博物館の意義<br>第15回 博物館経営の今日的課題と期末試験 |       |     |      |   |        |        |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 各回の授業テーマの内容を図書館にある参考書などによって予習しておく。（学習時間：30～60分）<br>なお、プライベートな時間に、近隣の博物館施設に足を運んで興味のある平常展や特別展の見学に努めたり、博物館や文化財、科学成果などに関する新聞記事やテレビのニュース・特別番組などに接した時には、興味のある内容や疑問点ピックアップし、授業の終わりなどに質問をして理解することも博物館を知る上では重要である。  |       |     |      |   |        |        |
| 授業方法                  | 基本的には、各回設定のテーマに基づいた講義形式。<br>ただし、時間的・人数的に可能であれば、グループ討議を行う。  |       |     |      |   |        |        |
| 評価基準と評価方法             | 期末試験70%：授業で扱った講義内容に関する理解度などにより評価する。<br>レポート15%：出題した課題に対する、内容の整理、コメントや疑問点などの記述により評価する。<br>平常点15%：授業中の質疑応答やリアクションペーパーなどによるコメントなどで評価する。<br>課題に対するフィードバックの方法<br>平常時の質問やコメントは授業中に解説し、レポートは講評を加えて返却する。期末試験の講評は、松蔭manabaで告知する。  |       |     |      |   |        |        |
| 履修上の注意                | 出席が授業回数の3分の2以上になるように気を付けること。<br>レポートとして、各々の受講生が近隣の博物館等を見学したうえでまとめる内容の課題を出す場合があり、その場合は入館料、交通費等は受講生の実費負担となる。   |       |     |      |   |        |        |
| 教科書                   | なし。授業中にプリントを適宜配布する。  |       |     |      |   |        |        |
| 参考書                   | 『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本部会 編 芙蓉書房出版（2012.3）ISBN:978-4-8295-0551-9<br>『博物館経営論』佐々木亨・亀井修 編著（財）放送大学教育振興会（2013.3）ISBN:978-4-595-31413-1<br>『大学生のための博物館学芸員入門』真野和生ほか 編著 技報堂出版（2014.4）ISBN:978-4-7655-4129-9<br>『観光資源としての博物館』中村浩・青木豊 編著 芙蓉書房出版（2016.3）ISBN-13:978-4829506776   |       |     |      |   |        |        |

|                       |  |       |     |      |   |        |        |
|-----------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分                  | 博物館学芸員課程科目   |       |     |      |   |        |        |
| 科目名                   | 博物館資料保存論   |       |     |      |   |        |        |
| 担当教員                  | 守屋 雅史  |       |     |      |   | 科目ナンバ- | T23740 |
| 学期                    | 前期/1st semester  | 曜日・時限 | 金曜4 | 配当学年 | 3 | 単位数    | 2.0    |
| 授業のテーマ                | 博物館資料を後世に伝えていくことの意義と方法、博物館による文化財や自然環境の保護に関する事例などを学習し、資料(作品)、文化財、自然環境の保全についての様々な理論と知識を習得する。   |       |     |      |   |        |        |
| 授業の概要                 | 博物館資料保存論は、博物館の学芸員をはじめ、実際に文化財や資料・作品などを扱う立場になったときに、どのような心構えで文化財や資料・作品などと向き合うかを学ぶ授業である。博物館資料の保全についての基礎知識を学び、科学的な観点から、保存に関する諸条件や被害への対策、収蔵・展示における問題点などを考え、博物館における環境の保護と地域における役割に関しても考察する。   |       |     |      |   |        |        |
| 到達目標                  | (1) 博物館におけるさまざまな分野の博物館資料の展示環境・収蔵環境などを科学的に捉え、博物館資料を良好な状態で後世に保存していくための知識を身につけることができる。<br>(2) 博物館資料の修復や修理に関する実務的な知識を習得することができる。<br>(3) 博物館における環境保護と地域における役割に関する理解を深めることができる。  |       |     |      |   |        |        |
| 授業計画                  | 第1回 イントロダクションー資料保存の意義についてー<br>第2回 文化財保護の展開と博物館の成立<br>第3回 資料の状態調査・現状把握<br>第4回 伝統的保存方法<br>第5回 資料保存の諸条件とその影響(温湿度、光、振動、大気など)<br>第6回 生物被害とIPM(総合的有害生物管理)<br>第7回 災害の防止と対策(火災、地震、水害、盗難など)<br>第8回 収蔵環境・展示環境における保存条件<br>第9回 資料の取扱い、梱包と輸送<br>第10回 資料の修復・修理(絵画、書跡、歴史資料など)<br>第11回 資料の修復・修理(考古資料、民俗資料、工芸、彫刻など)<br>第12回 資料の修復・修理(自然史資料、育成動植物など)<br>第13回 地域資源と文化財の保存と活用(エコミュージアム、景観、歴史的環境など)<br>第14回 自然環境の保護ー生物多様性と種の保存ー<br>第15回 博物館における資料保存の課題と期末試験 |       |     |      |   |        |        |
| 授業外における学習(準備学習の内容・時間) | 各回の授業テーマの内容を図書館にある参考書などによって予習しておく。(学習時間:30~60分)<br>なお、プライベートな時間に、近隣の博物館施設に足を運んで興味のある平常展や特別展の見学に努めたり、博物館や文化財、科学成果などに関する新聞記事やテレビのニュース・特別番組などに接した際には、興味のある内容や疑問点ピックアップし、授業の終わりなどに質問をして理解することも博物館を知る上では重要である。  |       |     |      |   |        |        |
| 授業方法                  | 基本的には、各回設定のテーマに基づいた講義形式。<br>ただし、時間的・人数的に可能であれば、実技的な体験学習をしたり、グループ討議を行う。   |       |     |      |   |        |        |
| 評価基準と評価方法             | 期末試験70%: 授業で扱った講義内容に関する理解度などにより評価する。<br>レポート15%: 出題した課題に対する、内容の整理、コメントや疑問点などの記述により評価する。<br>平常点15%: 授業中の質疑応答やリアクションペーパーなどによるコメントなどで評価する。<br>課題に対するフィードバックの方法<br>平常時の質問やコメントは授業中に解説し、レポートは講評を加えて返却する。期末試験の講評は、松蔭manabaで告知する。   |       |     |      |   |        |        |
| 履修上の注意                | 出席が授業回数の3分の2以上になるように気を付けること。<br>レポートとして、各々の受講生が近隣の博物館等を見学したうえでまとめる内容の課題を出す場合があり、その場合は入館料、交通費等は受講生の実費負担となる。   |       |     |      |   |        |        |
| 教科書                   | なし。授業中にプリントを適宜配布する。  |       |     |      |   |        |        |
| 参考書                   | 『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本部会 編 芙蓉書房出版(2012.3) ISBN:978-4-8295-0551-9<br>『文化財の保存環境』東京文化財研究所 編 中央公論美術出版(2011.11) ISBN:978-4-8055-0648-6<br>『文化財保存学入門』秋田貴廣 著 丸善出版(2012.3) ISBN:978-4-86345-119-3<br>『博物館資料保存論』本田光子・森田稔 編著 (財)放送大学教育振興会(2012.3) ISBN:978-4-595-31346-2<br>『大学生のための博物館学芸員入門』真野和生ほか 編著 技報堂出版(2014.4) ISBN:978-4-7655-4129-9  |       |     |      |   |        |        |

|                       |  |                       |     |      |   |        |        |     |              |                  |     |           |             |     |           |                |     |           |                    |     |           |                       |     |           |                   |     |                |                     |     |          |                  |     |           |              |      |           |           |      |           |             |      |           |             |      |       |                    |      |            |                      |      |          |                       |
|-----------------------|--|-----------------------|-----|------|---|--------|--------|-----|--------------|------------------|-----|-----------|-------------|-----|-----------|----------------|-----|-----------|--------------------|-----|-----------|-----------------------|-----|-----------|-------------------|-----|----------------|---------------------|-----|----------|------------------|-----|-----------|--------------|------|-----------|-----------|------|-----------|-------------|------|-----------|-------------|------|-------|--------------------|------|------------|----------------------|------|----------|-----------------------|
| 科目区分                  | 博物館学芸員課程科目   |                       |     |      |   |        |        |     |              |                  |     |           |             |     |           |                |     |           |                    |     |           |                       |     |           |                   |     |                |                     |     |          |                  |     |           |              |      |           |           |      |           |             |      |           |             |      |       |                    |      |            |                      |      |          |                       |
| 科目名                   | 博物館資料論   |                       |     |      |   |        |        |     |              |                  |     |           |             |     |           |                |     |           |                    |     |           |                       |     |           |                   |     |                |                     |     |          |                  |     |           |              |      |           |           |      |           |             |      |           |             |      |       |                    |      |            |                      |      |          |                       |
| 担当教員                  | 問屋 真一  |                       |     |      |   | 科目ナンバ- | T23730 |     |              |                  |     |           |             |     |           |                |     |           |                    |     |           |                       |     |           |                   |     |                |                     |     |          |                  |     |           |              |      |           |           |      |           |             |      |           |             |      |       |                    |      |            |                      |      |          |                       |
| 学期                    | 前期/1st semester  | 曜日・時限                 | 月曜5 | 配当学年 | 3 | 単位数    | 2.0    |     |              |                  |     |           |             |     |           |                |     |           |                    |     |           |                       |     |           |                   |     |                |                     |     |          |                  |     |           |              |      |           |           |      |           |             |      |           |             |      |       |                    |      |            |                      |      |          |                       |
| 授業のテーマ                | 博物館資料の種類と特徴および館活動の最も基礎的で重要である収集、整理保管、調査研究等について概観する。  |                       |     |      |   |        |        |     |              |                  |     |           |             |     |           |                |     |           |                    |     |           |                       |     |           |                   |     |                |                     |     |          |                  |     |           |              |      |           |           |      |           |             |      |           |             |      |       |                    |      |            |                      |      |          |                       |
| 授業の概要                 | 博物館資料の収集、整理保管、調査研究、展示等の活用について、主として人文系博物館の資料に即して理論と方法を概観する。自然科学系博物館の資料に関しては人文系とは異なる特徴について理解を促す。資料の活用、公開、調査研究活動が市民と博物館との連携を支えるものであることを理解し、博物館資料に関する基礎的な能力を養う。  |                       |     |      |   |        |        |     |              |                  |     |           |             |     |           |                |     |           |                    |     |           |                       |     |           |                   |     |                |                     |     |          |                  |     |           |              |      |           |           |      |           |             |      |           |             |      |       |                    |      |            |                      |      |          |                       |
| 到達目標                  | (1) 博物館資料とはどういうものなのかを理解し、館の種類の違いによる資料の特徴を具体的に述べることができる。<br>(2) 資料の収集・整理保管・調査研究等の方法と特徴について、基本となる知識と理論を説明できる。<br>(3) 調査研究活動とその公開の意義について、博物館の社会的役割に注目して説明できる。   |                       |     |      |   |        |        |     |              |                  |     |           |             |     |           |                |     |           |                    |     |           |                       |     |           |                   |     |                |                     |     |          |                  |     |           |              |      |           |           |      |           |             |      |           |             |      |       |                    |      |            |                      |      |          |                       |
| 授業計画                  | <p>前期 博物館資料論</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>博物館資料の意義と資料化</td> <td>…モノとコト、一次資料と二次資料</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>人文系資料の種類①</td> <td>…美術資料の種類と特徴</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>人文系資料の種類②</td> <td>…歴史・考古資料の種類と特徴</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>人文系資料の種類③</td> <td>…民俗資料、その他の資料の種類と特徴</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>収集の理念と方法①</td> <td>…収集方針とコレクション、各館の方針と特徴</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>収集の理念と方法②</td> <td>…収集（寄贈・寄託・購入等）の実際</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>自然史・動植物園系資料の収集</td> <td>…種類、収集の特徴、自然保護・環境教育</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>理工系資料の収集</td> <td>…種類、収集と価値観の特徴と課題</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>資料の分類・整理①</td> <td>…受入、登録の方法と実際</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>資料の分類・整理②</td> <td>…分類と目録の特徴</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>資料の分類・整理③</td> <td>…美術資料の調査と整理</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>資料の分類と整理④</td> <td>…歴史資料の調査と整理</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>資料の公開</td> <td>…理念と方法、特別利用、データベース</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>調査研究の意義と内容</td> <td>…個人研究と共同研究、地域調査と資料調査</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>成果の公開と方法</td> <td>…調査研究報告と展示活動、地域社会への還元</td> </tr> </table> |                       |     |      |   |        |        | 第1回 | 博物館資料の意義と資料化 | …モノとコト、一次資料と二次資料 | 第2回 | 人文系資料の種類① | …美術資料の種類と特徴 | 第3回 | 人文系資料の種類② | …歴史・考古資料の種類と特徴 | 第4回 | 人文系資料の種類③ | …民俗資料、その他の資料の種類と特徴 | 第5回 | 収集の理念と方法① | …収集方針とコレクション、各館の方針と特徴 | 第6回 | 収集の理念と方法② | …収集（寄贈・寄託・購入等）の実際 | 第7回 | 自然史・動植物園系資料の収集 | …種類、収集の特徴、自然保護・環境教育 | 第8回 | 理工系資料の収集 | …種類、収集と価値観の特徴と課題 | 第9回 | 資料の分類・整理① | …受入、登録の方法と実際 | 第10回 | 資料の分類・整理② | …分類と目録の特徴 | 第11回 | 資料の分類・整理③ | …美術資料の調査と整理 | 第12回 | 資料の分類と整理④ | …歴史資料の調査と整理 | 第13回 | 資料の公開 | …理念と方法、特別利用、データベース | 第14回 | 調査研究の意義と内容 | …個人研究と共同研究、地域調査と資料調査 | 第15回 | 成果の公開と方法 | …調査研究報告と展示活動、地域社会への還元 |
| 第1回                   | 博物館資料の意義と資料化   | …モノとコト、一次資料と二次資料      |     |      |   |        |        |     |              |                  |     |           |             |     |           |                |     |           |                    |     |           |                       |     |           |                   |     |                |                     |     |          |                  |     |           |              |      |           |           |      |           |             |      |           |             |      |       |                    |      |            |                      |      |          |                       |
| 第2回                   | 人文系資料の種類①  | …美術資料の種類と特徴           |     |      |   |        |        |     |              |                  |     |           |             |     |           |                |     |           |                    |     |           |                       |     |           |                   |     |                |                     |     |          |                  |     |           |              |      |           |           |      |           |             |      |           |             |      |       |                    |      |            |                      |      |          |                       |
| 第3回                   | 人文系資料の種類②  | …歴史・考古資料の種類と特徴        |     |      |   |        |        |     |              |                  |     |           |             |     |           |                |     |           |                    |     |           |                       |     |           |                   |     |                |                     |     |          |                  |     |           |              |      |           |           |      |           |             |      |           |             |      |       |                    |      |            |                      |      |          |                       |
| 第4回                   | 人文系資料の種類③  | …民俗資料、その他の資料の種類と特徴    |     |      |   |        |        |     |              |                  |     |           |             |     |           |                |     |           |                    |     |           |                       |     |           |                   |     |                |                     |     |          |                  |     |           |              |      |           |           |      |           |             |      |           |             |      |       |                    |      |            |                      |      |          |                       |
| 第5回                   | 収集の理念と方法①  | …収集方針とコレクション、各館の方針と特徴 |     |      |   |        |        |     |              |                  |     |           |             |     |           |                |     |           |                    |     |           |                       |     |           |                   |     |                |                     |     |          |                  |     |           |              |      |           |           |      |           |             |      |           |             |      |       |                    |      |            |                      |      |          |                       |
| 第6回                   | 収集の理念と方法②  | …収集（寄贈・寄託・購入等）の実際     |     |      |   |        |        |     |              |                  |     |           |             |     |           |                |     |           |                    |     |           |                       |     |           |                   |     |                |                     |     |          |                  |     |           |              |      |           |           |      |           |             |      |           |             |      |       |                    |      |            |                      |      |          |                       |
| 第7回                   | 自然史・動植物園系資料の収集   | …種類、収集の特徴、自然保護・環境教育   |     |      |   |        |        |     |              |                  |     |           |             |     |           |                |     |           |                    |     |           |                       |     |           |                   |     |                |                     |     |          |                  |     |           |              |      |           |           |      |           |             |      |           |             |      |       |                    |      |            |                      |      |          |                       |
| 第8回                   | 理工系資料の収集   | …種類、収集と価値観の特徴と課題      |     |      |   |        |        |     |              |                  |     |           |             |     |           |                |     |           |                    |     |           |                       |     |           |                   |     |                |                     |     |          |                  |     |           |              |      |           |           |      |           |             |      |           |             |      |       |                    |      |            |                      |      |          |                       |
| 第9回                   | 資料の分類・整理①  | …受入、登録の方法と実際          |     |      |   |        |        |     |              |                  |     |           |             |     |           |                |     |           |                    |     |           |                       |     |           |                   |     |                |                     |     |          |                  |     |           |              |      |           |           |      |           |             |      |           |             |      |       |                    |      |            |                      |      |          |                       |
| 第10回                  | 資料の分類・整理②  | …分類と目録の特徴             |     |      |   |        |        |     |              |                  |     |           |             |     |           |                |     |           |                    |     |           |                       |     |           |                   |     |                |                     |     |          |                  |     |           |              |      |           |           |      |           |             |      |           |             |      |       |                    |      |            |                      |      |          |                       |
| 第11回                  | 資料の分類・整理③  | …美術資料の調査と整理           |     |      |   |        |        |     |              |                  |     |           |             |     |           |                |     |           |                    |     |           |                       |     |           |                   |     |                |                     |     |          |                  |     |           |              |      |           |           |      |           |             |      |           |             |      |       |                    |      |            |                      |      |          |                       |
| 第12回                  | 資料の分類と整理④  | …歴史資料の調査と整理           |     |      |   |        |        |     |              |                  |     |           |             |     |           |                |     |           |                    |     |           |                       |     |           |                   |     |                |                     |     |          |                  |     |           |              |      |           |           |      |           |             |      |           |             |      |       |                    |      |            |                      |      |          |                       |
| 第13回                  | 資料の公開  | …理念と方法、特別利用、データベース    |     |      |   |        |        |     |              |                  |     |           |             |     |           |                |     |           |                    |     |           |                       |     |           |                   |     |                |                     |     |          |                  |     |           |              |      |           |           |      |           |             |      |           |             |      |       |                    |      |            |                      |      |          |                       |
| 第14回                  | 調査研究の意義と内容   | …個人研究と共同研究、地域調査と資料調査  |     |      |   |        |        |     |              |                  |     |           |             |     |           |                |     |           |                    |     |           |                       |     |           |                   |     |                |                     |     |          |                  |     |           |              |      |           |           |      |           |             |      |           |             |      |       |                    |      |            |                      |      |          |                       |
| 第15回                  | 成果の公開と方法   | …調査研究報告と展示活動、地域社会への還元 |     |      |   |        |        |     |              |                  |     |           |             |     |           |                |     |           |                    |     |           |                       |     |           |                   |     |                |                     |     |          |                  |     |           |              |      |           |           |      |           |             |      |           |             |      |       |                    |      |            |                      |      |          |                       |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | <p>授業前準備学習：日頃から多くの博物館、展覧会を見学して養った資料についての知見、博物館に関する問題意識を整理しておくこと。また配布プリントにより予習すること。（学習時間：90分）</p> <p>授業後学習：授業で取り上げた内容を確認、整理し、課題に取り組むこと。また授業で得た知識や問題意識を活かして博物館や展覧会を見学し、新たな問題意識や課題を持つこと。（学習時間：90分）</p>  |                       |     |      |   |        |        |     |              |                  |     |           |             |     |           |                |     |           |                    |     |           |                       |     |           |                   |     |                |                     |     |          |                  |     |           |              |      |           |           |      |           |             |      |           |             |      |       |                    |      |            |                      |      |          |                       |
| 授業方法                  | 講義   |                       |     |      |   |        |        |     |              |                  |     |           |             |     |           |                |     |           |                    |     |           |                       |     |           |                   |     |                |                     |     |          |                  |     |           |              |      |           |           |      |           |             |      |           |             |      |       |                    |      |            |                      |      |          |                       |
| 評価基準と評価方法             | <p>評価基準と評価方法</p> <p>平常点（4割）：授業中の質疑応答、発表、授業態度、課題に対する提出物、見学レポートなどにより評価する。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。</p> <p>期末試験またはレポート(6割)：授業の概要に即して評価する。到達目標全体についての到達度の確認。</p>  |                       |     |      |   |        |        |     |              |                  |     |           |             |     |           |                |     |           |                    |     |           |                       |     |           |                   |     |                |                     |     |          |                  |     |           |              |      |           |           |      |           |             |      |           |             |      |       |                    |      |            |                      |      |          |                       |
| 履修上の注意                | <p>出席、自主的な展覧会見学を重視する。なお見学については簡潔なレポートの提出が望ましい。</p> <p>また授業の一環として近隣の博物館等を見学することがあり、そのときは入館料、交通費等の実費負担が必要となる。</p> <p>教科書にかわる配布プリントは授業ごとに出席者に配布する（欠席者へは次の授業に限り、要望があれば配布する）。</p>   |                       |     |      |   |        |        |     |              |                  |     |           |             |     |           |                |     |           |                    |     |           |                       |     |           |                   |     |                |                     |     |          |                  |     |           |              |      |           |           |      |           |             |      |           |             |      |       |                    |      |            |                      |      |          |                       |
| 教科書                   | 適宜プリントを配布する。   |                       |     |      |   |        |        |     |              |                  |     |           |             |     |           |                |     |           |                    |     |           |                       |     |           |                   |     |                |                     |     |          |                  |     |           |              |      |           |           |      |           |             |      |           |             |      |       |                    |      |            |                      |      |          |                       |
| 参考書                   | 参考となる博物館、展覧会等を含め、授業中に適宜紹介する。   |                       |     |      |   |        |        |     |              |                  |     |           |             |     |           |                |     |           |                    |     |           |                       |     |           |                   |     |                |                     |     |          |                  |     |           |              |      |           |           |      |           |             |      |           |             |      |       |                    |      |            |                      |      |          |                       |

|                       |  |       |     |      |   |        |        |
|-----------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分                  | 博物館学芸員課程科目   |       |     |      |   |        |        |
| 科目名                   | 博物館情報・メディア論  |       |     |      |   |        |        |
| 担当教員                  | 塚原 晃   |       |     |      |   | 科目ナンバ- | T22770 |
| 学期                    | 前期/1st semester  | 曜日・時限 | 月曜3 | 配当学年 | 2 | 単位数    | 2.0    |
| 授業のテーマ                | 博物館・美術館におけるICT(情報コミュニケーション技術)の基礎と応用  |       |     |      |   |        |        |
| 授業の概要                 | 博物館が収集した1次・2次資料に関する情報は、博物館活動を展開する上で基幹となる情報である。近年、ICTの発達が目覚ましいが、それに伴い博物館情報のデジタル化も急速に進められている。これは博物館情報に新たな価値を付与するとともに、博物館活動に大きな変化をもたらしている。その結果、情報の管理や活用上の新たな課題も生じており、学芸員にはそれに対処する知識・能力が求められている。そこでこの科目では、博物館が持つ情報の意義と、近年の各メディアを用いた博物館活動の展開について、具体的事例をもとに学び、新たな課題についても理解を深める。  |       |     |      |   |        |        |
| 到達目標                  | 博物館で扱う多様な情報およびコンテンツを理解し活用できる。<br>また、情報・コンテンツの管理・公開に必要なスキルや法令に関する基本的知識を習得できる。   |       |     |      |   |        |        |
| 授業計画                  | 第1回 博物館における情報・メディアの意義と種類(博物館での9種類の情報)<br>第2回 博物館活動の情報化(調査研究・教育普及から広報・広聴活動まで。学校・図書館・研究機関の情報化との相違と関連)<br>第3回 メディアの理論・歴史と情報の意義・メディアとしての博物館(メディアの発展と博物館・情報)<br>第4回 コレクションドキュメンテーションとデータベース化I<br>第5回 コレクションドキュメンテーションとデータベース化II<br>第6回 デジタルアーカイブの現状と課題(画像データベース構築事例を中心に)<br>第7回 情報機器の活用(情報機器に関する知識・経験)<br>第8回 情報管理と情報公開I(博物館での情報管理システム構築)<br>第9回 情報管理と情報公開II(情報公開の実際・コンテンツ制作について)<br>第10回 ICT社会の中の博物館I(博物館でのインターネットの活用、特に情報資源の双方向活用と役割)<br>第11回 ICT社会の中の博物館II(博物館メディアの役割と学習活用)<br>第12回 情報倫理・映像倫理(情報・コンテンツの公開で博物館に求められる倫理観)<br>第13回 博物館と知的財産I(個人情報・知的財産権のあらまし)<br>第14回 博物館と知的財産II(権利処理の方法)<br>第15回 博物館の情報化と新たな価値の創造(課題レポートの発表) |       |     |      |   |        |        |
| 授業外における学習(準備学習の内容・時間) | この授業では、博物館・美術館のインターネットによる情報発信・共有について話題になることが多いので、授業中に指定したWEBサイトなどを閲覧し、次の授業に必要な情報収集を求める場合がある。   |       |     |      |   |        |        |
| 授業方法                  | 講義   |       |     |      |   |        |        |
| 評価基準と評価方法             | 課題レポート40%、平常点60%(詳細は初回講義で説明)   |       |     |      |   |        |        |
| 履修上の注意                | パソコン、特にインターネット諸サービス(WEB・メール・SNSなど)の基本的な操作・利用方法について理解していることが望ましい。   |       |     |      |   |        |        |
| 教科書                   | なし。  |       |     |      |   |        |        |
| 参考書                   | 『文化財写真の保存に関するガイドライン ～デジタル画像保存の実情と課題～』(文化財写真保存ガイドライン検討グループ作成、(社)日本写真学会、文化財写真技術研究会発行、2012年5月)<br>www.spstj.org/item/pdf/1337264652_event_pdf2.pdf  |       |     |      |   |        |        |

|                       |  |       |     |      |   |       |        |
|-----------------------|--|-------|-----|------|---|-------|--------|
| 科目区分                  | 博物館学芸員課程科目   |       |     |      |   |       |        |
| 科目名                   | 博物館実習  |       |     |      |   |       |        |
| 担当教員                  | 守屋 雅史  |       |     |      |   | 科目ナンバ | T24780 |
| 学期                    | 通年／Full Year   | 曜日・時限 | 木曜4 | 配当学年 | 4 | 単位数   | 3.0    |
| 授業のテーマ                | 博物館学芸員養成課程における4年間の学修の総まとめとして、学芸員の業務に関する学内での講義と実務実習、学外での博物館施設の見学や夏期の館園実習の体験を通じて、博物館の運営のあり方と学芸員の業務の実態を理解する。  |       |     |      |   |       |        |
| 授業の概要                 | 博物館実習は、夏期の学外の館園実習を中心に、その事前事後の講義による指導と、学内で行う博物館資料の取扱などに関する実務実習、多様な博物館あり方や展覧会の実態を観察する見学実習（日曜日）で構成される。夏期の学外の館園実習は、各学生の希望に応じてできるだけ専門領域関連分野に関係する実習館を用意するが、実習する各博物館ではそれぞれの学芸員の指導の下で、学芸員の業務を体験する。なお、このシラバスには学外での館園実習（夏期の終日、5～6日程度）の内容は含んでいない。   |       |     |      |   |       |        |
| 到達目標                  | (1)講義・実務実習などによる学内授業、博物館施設の見学実習によって、博物館施設の実態と学芸員の多様な業務の内容を体験として知ることができる。<br>(2)夏期の学外の館園実習に参加して、博物館施設で働く学芸員の実際の指導の下に学芸業務を体験し、博物館施設の経営の実状や学芸員の幅広い実務を実感することで、学芸員になるための実践的な能力を身につけることができる。  |       |     |      |   |       |        |
| 授業計画                  | 学外見学実習や夏期の館園実習があるため授業の内容や日程は未定部分が多い。受講許可による授業なので学科からの連絡で登録を許可された学生は、4月の第1回目の授業に出席して、授業日程と具体的内容、その他の詳細や注意事項に関する説明を受けること。<br>(前期《予定》)<br>第1回 オリエンテーションー学内実習と学外実習について<br>第2回 博物館施設の種類と内容<br>第3回 学芸員の仕事1（絵画・書跡などの取扱いと調査）<br>第4回 博物館・美術館の見学実習1（日曜日）<br>第5回 学芸員の仕事2（彫刻・工芸品の取扱いと調査）<br>第6回 学芸員の仕事3（作品の梱包と輸送）<br>第7回 博物館・美術館の見学実習2（日曜日）<br>第8回 夏期学外館園実習の準備<br>*夏期休暇中に学外の館園実習がある。館園と日程の確定は6、7月頃。終日実習で5～6日程度の予定。<br>(後期《予定》)<br>第9回 館園実習の報告と自己評価<br>第10回 博物館・美術館の見学実習3（日曜日）<br>第11回 学芸員の仕事4（展覧会の企画と運営）<br>第12回 学芸員の仕事5（作品展示と教育普及）<br>第13回 学芸員の仕事6（チラシ・ポスターの作成）<br>第14回 博物館・美術館の見学実習4（日曜日）<br>第15回 文学部での学修と学芸員養成課程の総括、および期末試験 |       |     |      |   |       |        |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 各回の授業テーマの内容を図書館にある参考書などによって予習しておく。（学習時間：30～60分）<br>なお、プライベートな時間に、近隣の博物館施設に足を運んで興味のある平常展や特別展の見学に努めたり、博物館や文化財、科学成果などに関する新聞記事やテレビのニュース・特別番組などに接した時には、興味のある内容や疑問点ピックアップし、授業の終わりなどに質問をして理解することも博物館を知る上では重要である。  |       |     |      |   |       |        |
| 授業方法                  | 基本的には、各回設定のテーマに基づいて、学内での講義と演習、学外での見学実習（日曜日、4回の予定）を行い、加えて夏期の学外の博物館施設での館園実習（終日、5～6日程度）を学芸の博物館施設の指導の下に行う。技術の実務も行う実習科目なので出席を重要視し、可能であれば、少人数の班に分けた個別指導も行う。  |       |     |      |   |       |        |
| 評価基準と評価方法             | 後期の期末試験70%：授業で扱った講義内容・実務内容に関する記述の理解度などにより評価する。<br>レポート15%：見学実習によるコメントや疑問点などの記述により評価する。<br>平常点15%：授業中の質疑応答やアクションペーパーなどによるコメントなどで評価する。<br>課題に対するフィードバックの方法<br>平常時の質問やコメントは授業中に解説し、レポートは講評を加えて返却する。期末試験の講評は、松蔭manabaで告知する。  |       |     |      |   |       |        |
| 履修上の注意                | 博物館学芸員養成課程の4年間の学修の総まとめの意味をもつ科目であり、原則として3年次までに博物館学芸員養成課程の必修科目（博物館実習を除く）、及び選択科目の必要な単位数をすべて修得し、かつ一定の学修基準等を満たした学生のみ履修が認められる。学外での見学実習などもあるので、常にポータルや松蔭 manaba などでの連絡に注意すること。博物館・美術館の見学実習は、日曜日に4回ほど実施する予定であるが、見学実習における入場料・交通費は実費負担である。夏期の学外館園実習は5～6日程度の予定であり、第1回目詳細を説明するが、費用などについては、学生便覧に記載の通りである。   |       |     |      |   |       |        |
| 教科書                   | なし。授業中にプリントを適宜配布する。  |       |     |      |   |       |        |
| 参考書                   | 『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本部会 編 芙蓉書房出版（2012.3） ISBN:978-4-8295-0551-9<br>『大学生のための博物館学芸員入門』真野和生ほか 編著 技報堂出版（2014.4） ISBN:978-4-7655-4129-9<br>『観光資源としての博物館』中村浩・青木豊 編著 芙蓉書房出版（2016.3） ISBN-13:978-4829506776   |       |     |      |   |       |        |

|                       |  |       |     |      |   |        |        |
|-----------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分                  | 博物館学芸員課程科目   |       |     |      |   |        |        |
| 科目名                   | 博物館展示論   |       |     |      |   |        |        |
| 担当教員                  | 守屋 雅史  |       |     |      |   | 科目ナンバ- | T23750 |
| 学期                    | 後期/2nd semester  | 曜日・時限 | 金曜4 | 配当学年 | 3 | 単位数    | 2.0    |
| 授業のテーマ                | 博物館における博物館資料の展示に関する様々な知識・技能の学習を通じて、展覧会の主旨を観覧者に伝達する方法の理論と実践を習得する。   |       |     |      |   |        |        |
| 授業の概要                 | 博物館展示論では、学芸員がどのような意図をもって、どのような方法で、一般の人々に対して博物館資料を提示し、観覧者とのコミュニケーションを図っていくべきなのかを学ぶ。考古資料・歴史資料・美術作品・自然史資料などの幅広い分野の展示の実践例を通じて、展示に関する理論や歴史、教育的実践、具体的な技術や手法を習得し、博物館の展示機能に関する基礎的な能力を養う。さらに、展示の解説活動として、作品解説や展示解説パネル、人や機器を用いた解説法、展覧会図録などの製作についても学習する。   |       |     |      |   |        |        |
| 到達目標                  | (1)博物館資料の展示の歴史、展覧会の企画と運営、展示による教育活動などに関する理論や知識を身につけることができる。<br>(2)展示の諸形態、展示方法に関する知識や技術を習得し、博物館の展示機能に関する基礎的な能力を知ることができる。   |       |     |      |   |        |        |
| 授業計画                  | 第1回 イン트로ダクション -博物館における展示のあれこれ-<br>第2回 展示と展示論の歴史<br>第3回 博物館における展示の目的 -コミュニケーションとしての展示-<br>第4回 平常展と特別展の企画と運営<br>第5回 展示のあり方と展示条件<br>第6回 展示技術・照明技術のいろいろ<br>第7回 題箋・列品解説と解説パネル類<br>第8回 人による解説、機器による解説 -ギャラリートークとイヤホンガイド-<br>第9回 展示の解説書 -チラシ、出品目録、展示リーフレット、展覧会図録-<br>第10回 平常展の諸形態1 -美術系博物館などの展示-<br>第11回 平常展の諸形態2 -歴史系博物館などの展示-<br>第12回 平常展の諸形態3 -科学系博物館などの展示-<br>第13回 特別展(自主企画展・巡回展)の諸形態<br>第14回 展覧会の評価、改善、更新(自己評価と外部評価)<br>第15回 博物館展示の今日的課題、および試験 |       |     |      |   |        |        |
| 授業外における学習(準備学習の内容・時間) | 各回の授業テーマの内容を図書館にある参考書などによって予習しておく。(学習時間:30~60分)<br>なお、プライベートな時間に、近隣の博物館施設に足を運んで興味のある平常展や特別展の見学に努めたり、博物館や文化財、科学成果などに関する新聞記事やテレビのニュース・特別番組などに接した時には、興味のある内容や疑問点ピックアップし、授業の終わりなどに質問をして理解することも博物館を知る上では重要である。  |       |     |      |   |        |        |
| 授業方法                  | 基本的には、各回設定のテーマに基づいた講義形式。<br>ただし、時間的・人数的に可能であれば、実技的な体験学習をしたり、グループ討議を行う。   |       |     |      |   |        |        |
| 評価基準と評価方法             | 期末試験70%: 授業で扱った講義内容に関する理解度などにより評価する。<br>レポート15%: 出題した課題に対する、内容の整理、コメントや疑問点などの記述により評価する。<br>平常点15%: 授業中の質疑応答やリアクションペーパーなどによるコメントなどで評価する。<br>課題に対するフィードバックの方法<br>平常時の質問やコメントは授業中に解説し、レポートは講評を加えて返却する。期末試験の講評は、松蔭manabaで告知する。   |       |     |      |   |        |        |
| 履修上の注意                | 出席が授業回数の3分の2以上になるように気を付けること。<br>レポートとして、各々の受講生が近隣の博物館等を見学したうえでまとめる内容の課題を出す場合があり、その場合は入館料、交通費等は受講生の実費負担となる。   |       |     |      |   |        |        |
| 教科書                   | なし。授業中にプリントを適宜配布する。  |       |     |      |   |        |        |
| 参考書                   | 『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本部会 編 芙蓉書房出版(2012.3) ISBN:978-4-8295-0551-9<br>『博物館展示論』稲村哲也 編著 (財)放送大学教育振興会(2016.3) ISBN 978-4-595-31613-5<br>『大学生のための博物館学芸員入門』真野和生ほか 編著 技報堂出版(2014.4) ISBN:978-4-7655-4129-9<br>『観光資源としての博物館』中村浩・青木豊 編著 芙蓉書房出版(2016.3) ISBN-13:978-4829506776  |       |     |      |   |        |        |